

## 第6学年 国語科学習指導案

時間・場所 1校時 6年3組教室

学 級 6年3組30名(男子17名, 女子13名)

指 導 者 柳 橋 貴 之

### 1 単元名 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう

学習材名 『鳥獣戯画』を読む (光村図書 6年)

### 2 単元について

児童は、これまでに「ようこそ、私たちの町へ」で書く事柄をパンフレットの構成に沿って整理し必要な事柄を選んで簡単に書いたり、詳しく書いたりする学習している。「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」では、筆者の主張に対して自分の考えをまとめることや、相手に分かりやすく伝えるための文章構成・表現の工夫があることにも着目し、自分の考えを表現することに生かすことができている。しかし、自分の考えをもち、友達と交流する活動については、自らの考えを発表することや、共通点や相違点を比較することはできているが、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりする点については、個人差が大きく見られる状況である。

本学習材は、筆者がアニメ映画の監督の視点で「鳥獣戯画」の素晴らしいと感じている点について解説を交えながら感想や意見を述べている説明的な文章である。また、絵の解説と解釈、評価からなる評論文としての特徴をもっている。絵と文章を合わせて読むように書かれており、「文章を図表やグラフ、絵等と合わせて読む力」を育てるのに適している。また、体言止めや比喩表現、語りかけるような表現等、特徴的な書き方がされており、ものの見方や感じ方を読者に伝えるための筆者の工夫を学ぶことができる。

本単元では、『鳥獣戯画』について自分の考えをまとめる」という言語活動を設定した。第一次では、絵を見て気付いたことを話し合い、絵の見方の違いのおもしろさを感じさせると共に、学習計画を立て、見通しをもたせる。第二次では、筆者のものの見方を読者に伝えるための表現の工夫を、絵と文を照らし合わせながら捉えさせていく。第三次では、教科書に掲載されている「鳥獣戯画」から自分が関心をもった部分についての考えを、筆者の表現の工夫を手引きとさせ、まとめる学習活動を行わせていきたい。

### 3 単元の目標

○絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち、文章を読もうとする。 【国語への関心・意欲・態度】

◎絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。

【読むこと ウ】

○文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)】

### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち、文章を読もうとしている。	◎筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかを捉えている。	○文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を考えて、自分の表現に用いている。

### 5 学習計画 (全6時間)

第一次 絵を見て感じたことをノートにまとめ、学習課題を確認し、学習計画を立てる。(1時間)

第二次 絵と文章とを対応させながら読み、文章構成や表現の工夫を捉える。(3時間) 本時 1/3

第三次 自分なりに絵を読み、友達の見方と比べる。(2時間)

## 6 本時の指導（2/6）

（1）ねらい 筆者が絵の描き方について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読むことができる。

### （2）展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導のための工夫 □評価〈方法〉
<p>① 1 前時を想起する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>	<p>・一枚の絵から、いろいろな捉え方ができたことを振り返る。</p>	<p>□学習計画表を掲示し、見通しをもち主体的に学習できるようにする。 (視覚化)</p>
<p>対応する文と絵を見つけ、筆者がどのように考え感じているか、とらえよう。</p>		
<p>③ 課題を解決する。</p> <p>（1）絵と文が対応している部分を見付ける。</p> <p>（2）筆者がどのように考え、感じているのが表われている表現を見付ける。</p>	<p>○絵を説明している表現を見付けること</p> <p>・取り上げた対象の、何に着目しているかを見付ける。</p> <p><b>【着眼点】</b></p> <p>・形、大きさ、色、格好、表情、気持ち等</p> <p><b>【説明の表現】</b></p> <p>・蛙が外掛け</p> <p>・兎は足をからめて返し技 等</p> <p>○筆者の考え、感じ方が表われている文</p> <p>・のびのびと見事な筆運び、その気品</p> <p>・生き生きと躍動していて、まるで人間みたい 等</p>	<p>□文と絵が対応しているところを確認しやすくするために絵を提示し、文には赤のサイドラインを引かせ、合う絵の部分は同じ色で囲ませ、それぞれを線で結ばせる。 (視覚化)</p> <p>・筆者の評価が表われている文表現には青サイドラインを引かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>□<b>読</b>文が絵のどの部分を取り上げているか、筆者がどんな感じ方や評価をしているか、読み取っている。 &lt;サイドライン、絵の部分囲み線&gt;</p> </div>
<p>4 自分の考えや感想を書きまとめる。</p>	<p>○自分の考え・感想の書き方</p> <p>①筆者の着眼点</p> <p>②筆者の考え、評価</p> <p>③筆者の考え、評価に対しての自分の考えや感想</p>	<p>□自分の考え、感想を書きやすいように書き方を示す。 (焦点化)</p> <p>・筆者の評価に対してどう思うか、共通点や相違点を明らかしながら考えをノートにまとめさせる。</p>
<p>⑤ 交流する。</p> <p>（1）3人交流</p> <p>（2）全体交流</p>	<p>○自分の考えを広げること</p> <p><b>【交流の観点】</b></p> <p>・共通点</p> <p>・相違点</p> <p>・新たな気付き 等</p>	<p>・着眼点、考えや評価は、人によって異なり、様々であることを捉えさせ、考えを広げるようにさせる。</p>
<p>⑥ 本時を振り返る。</p>	<p><b>【振り返りの観点】</b></p> <p>・友達の考えから学んだこと</p>	<p>□板書をもとに学習ポイントを整理し、本時の学習を位置づける。 (共有化)</p>